

2012 年 3 月 28 日

報道関係各位

会社名 株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメント
代表者名 代表取締役社長 鳥越 慎二
(コード 8769 JASDAQ)

約 16 万人のストレス状況を分析、若年層ほど高ストレス者の割合は高い ～ メンタルヘルス対策プログラム「アドバンテッジ EAP」の 2011 年利用実績を発表 ～

株式会社アドバンテッジ リスク マネジメント(本社:東京都目黒区、代表取締役社長:鳥越慎二)が、東京海上日動メディカルサービス株式会社と共同で提供しているメンタルヘルス対策プログラム「アドバンテッジ EAP」の 2011 年の利用実績データを集計し、分析結果をまとめました。

【アドバンテッジ EAP 利用実績 分析結果のポイント】

- 1) 相談(カウンセリング)利用は、男女では女性が多く、年代別では 40 代が最多
相談を利用する割合は、男性(7.1%)よりも女性(11.5%)の方が高く、年代別では 40 代(9.6%)で最も高く、30 代(9.0%)がそれに次いだ。
- 2) 高ストレス者への能動的なフォローで相談利用率が約 3 倍
高ストレスもしくはサポートが必要と考えられる者(「フォローメール対象者」と定義)については、相談利用率が 23.9%と全体(7.9%)に比べて約 3 倍となり、能動的な相談利用の促進が有効であることが示された。
- 3) 総合的ストレスレベルは若年層ほど高くなる
総合的ストレスレベル(度合い)を男女別に見ると、男性(50.1pt)、女性(51.7pt)で女性の方が高い。年代別には、20 代(51.7pt)が最も高く、30 代(51.3pt)・40 代(50.8pt)・50 代(48.2pt)と年代が高いほどストレスレベルは低下する。
- 4) 高ストレス者の割合は男性より女性の方が高く、年代別では 20 代が最も多い
高いストレスを抱えている従業員(ストレスレベル「要注意」)の割合は、全体では 8.8%であり、男女別では男性(8.3%)、女性(11.1%)となり女性の方が高かった。年代別に見ると、20 代(11.4%)が最も多く、30 代(10.5%)、40 代(9.5%)が続いた。
- 5) メンタルヘルス対策プログラムの継続的な利用が「職場の人間関係」に効果
メンタルヘルス対策プログラム「アドバンテッジ EAP」を導入してから年数が経過するに従って、「職場の人間関係」「意見尊重の風土」「職場の相談相手」のポイントが良好になっている。

※ 添付資料「2011 年アドバンテッジ EAP 利用実績調査 報告書(サマリー)」をご参照ください。

<アドバンテッジ EAP について>

「アドバンテッジ EAP」は、アドバンテッジ リスク マネジメントと東京海上日動メディカルサービス株式会社の精神科医と共同開発した従業員のメンタル不調者の早期発見・早期対応を重視する国内最大級のメンタルヘルス対策プログラムです(2011 年 12 月末で約 130 社/団体、約 32 万人が利用)。待ち受け型の相談窓口が主体である一般的な EAP とは異なり、能動的・包括的な EAP サービスを提供しています。

<株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメントについて>

株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメントは「『安心して働ける環境』と『活力ある個と組織』を共に創る」を企業理念に、先進的な人事戦略ソリューションを提供しています。メンタルヘルス業界としては唯一の上場企業であり、日本経済団体連合会に加盟しています。1995年に日本で最初となる GLTD (団体長期障害所得補償保険) を提供して以来、「就業不能リスク」「メンタルヘルス問題」などの社会的課題を解決するためのソリューション事業を展開。GLTD 分野で延べ 30 万人、企業向けメンタルヘルスケア分野で約 880 社 82 万人となり、いずれも国内トップシェアの導入実績を有しています。

<東京海上日動メディカルサービス株式会社について>

東京海上日動メディカルサービス株式会社は、1987 年の創立以来、優秀な医師等の医療専門家を擁し、医療・健康分野で事業展開をしている企業です。近年ではトータルヘルスケアコンサルティング企業として、社会の環境変化やお客様のニーズに応じて新たな事業領域や高品質な商品・サービス開発にチャレンジしています。

特にメンタルヘルス領域においては、「アドバンテッジEAP」をはじめとする各種サービスで、精神科医を中心とした専門チーム(臨床心理士等)が働く方と組織のメンタルヘルスマネジメントをサポートしています。

本件に関するお問い合わせ先

株式会社 アドバンテッジ リスク マネジメント <http://www.armg.jp>

TEL:03-5794-3807 FAX:03-5794-3909 (広報担当: 熊澤)

【添付資料】

2011 年アドバンテッジ EAP 利用実績調査 報告書(サマリー)

○調査結果の概要

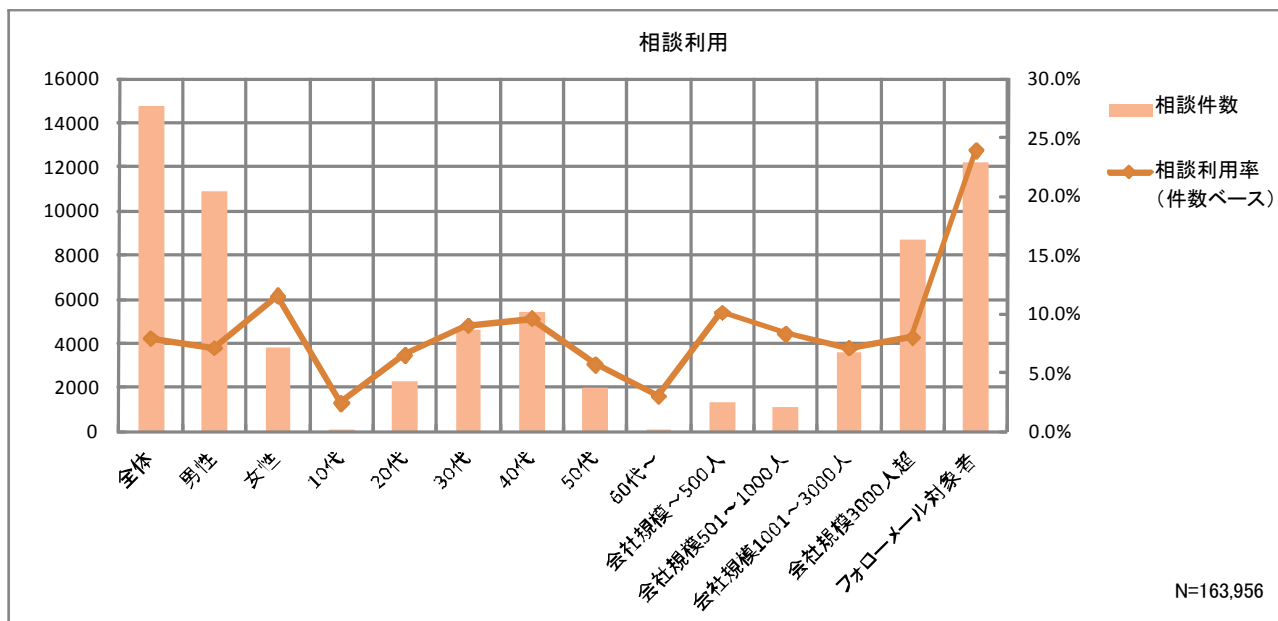
- ・調査対象：メンタルヘルス対策プログラム「アドバンテッジ EAP」導入企業／団体の従業員(2011 年 12 月末時点、約 130 社／団体、約 32 万人)のうち、一部の企業を除いた約 16 万人
- ・調査期間：相談(カウンセリング)利用実績 2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日
ストレスチェック利用実績 2011 年 4 月 1 日～2011 年 11 月 30 日
- ・調査対象者のプロフィール：

| | | 対象者数(人) | 割合(%) |
|-------|-----------|---------|-------|
| 全体 | | 163,956 | |
| 性別 | 男性 | 134,247 | 81.9% |
| | 女性 | 29,709 | 18.1% |
| 年代別 | 10代 | 831 | 0.5% |
| | 20代 | 27,694 | 16.9% |
| | 30代 | 43,283 | 26.4% |
| | 40代 | 51,154 | 31.2% |
| | 50代 | 33,737 | 20.6% |
| | 60代～ | 4,210 | 2.6% |
| | 不明 | 3,047 | 1.9% |
| 業種別 | 製造業 | 95,841 | 58.5% |
| | IT・通信 | 10,447 | 6.4% |
| | 商社・物流・小売 | 17,178 | 10.5% |
| | 金融 | 11,030 | 6.7% |
| | 公共機関 | 19,058 | 11.6% |
| | サービス/その他 | 10,402 | 6.3% |
| 会社規模別 | ～500 | 14,232 | 8.7% |
| | 501～1000 | 13,271 | 8.1% |
| | 1001～3000 | 42,468 | 25.9% |
| | 3000超 | 93,985 | 57.3% |

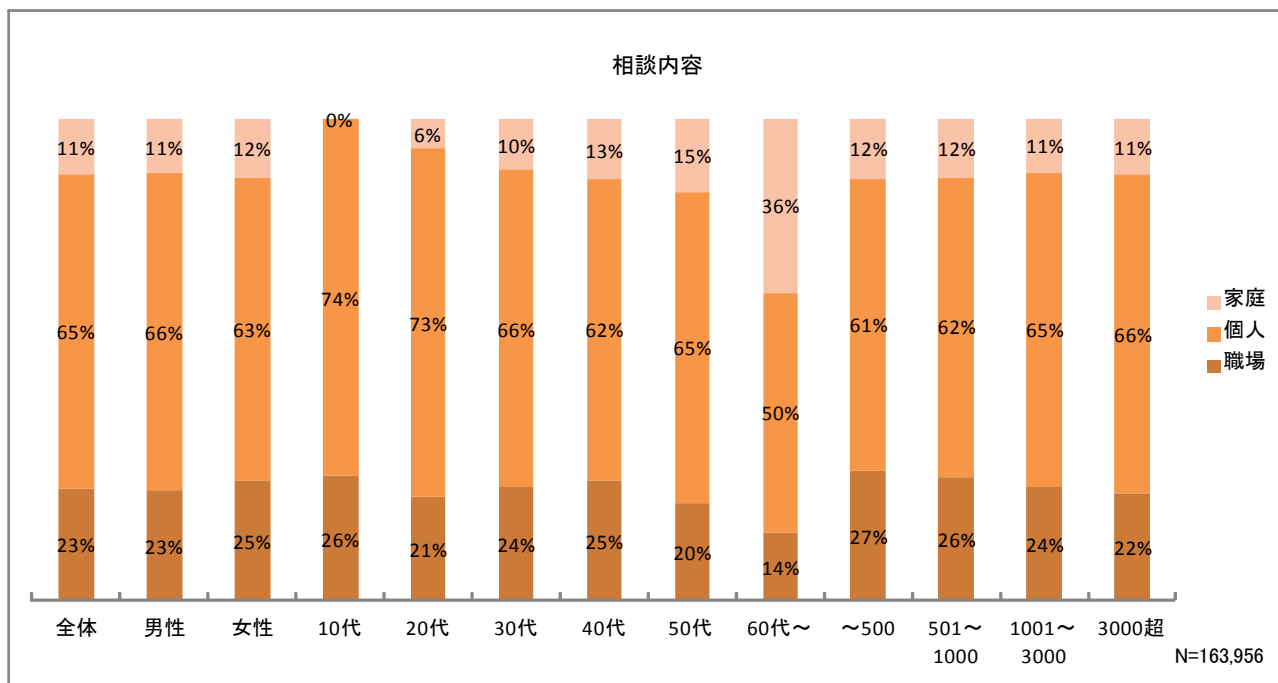
1. 相談(カウンセリング)利用実績の集計

アドバンテッジ EAP を導入している企業・団体の従業員の方が、Web 相談(インターネットを通じた相談)や対面相談、電話相談を行った件数、内容を集計しました。

相談(カウンセリング)を利用する割合は、男性(7.1%)よりも女性(11.5%)の方が高く、年代別では 40 代(9.6%)で最も高く、30 代(9.0%)がそれに次いだ。高ストレスもしくはサポートが必要と考えられる者(「フォローメール対象者」と定義)については、相談利用率が 23.9%と全体(7.9%)に比べて約 3 倍となり、能動的な相談利用の促進が有効であることが示された。



相談内容については、「個人(相談者本人)」に関するものが 65%と最も多く、次いで職場(23%)、家庭(11%)と続いた。個人に関する相談は 10 代(74%)、20 代(73%)で比較的多く見られた。

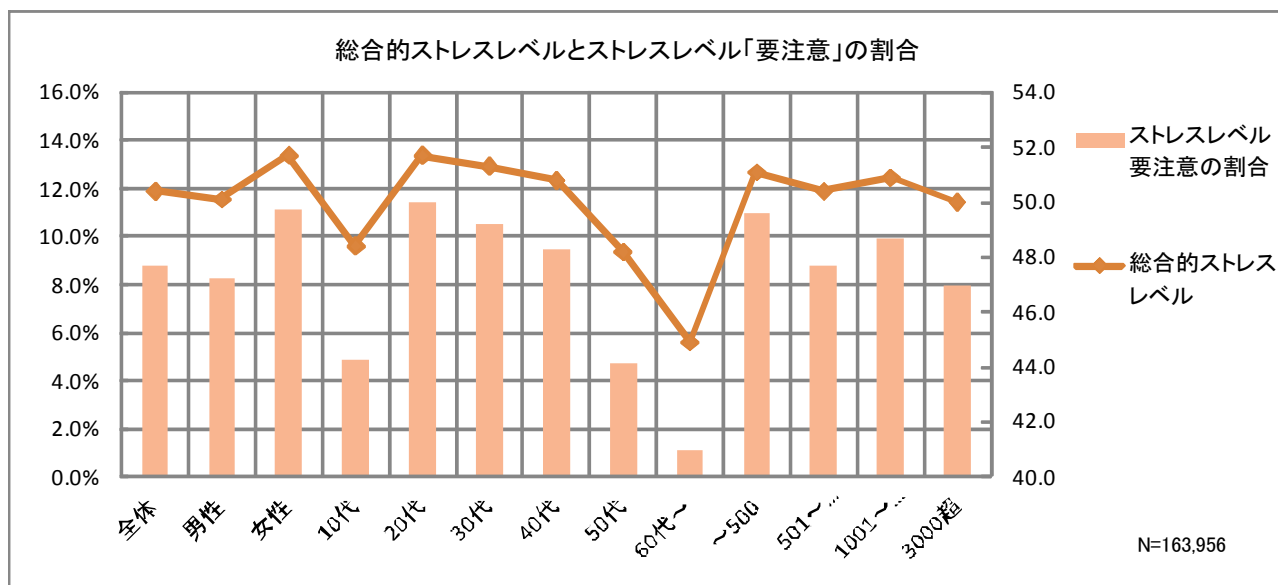


2. ストレスチェック(ココロの健康診断 eMe)の利用・実施データの集計

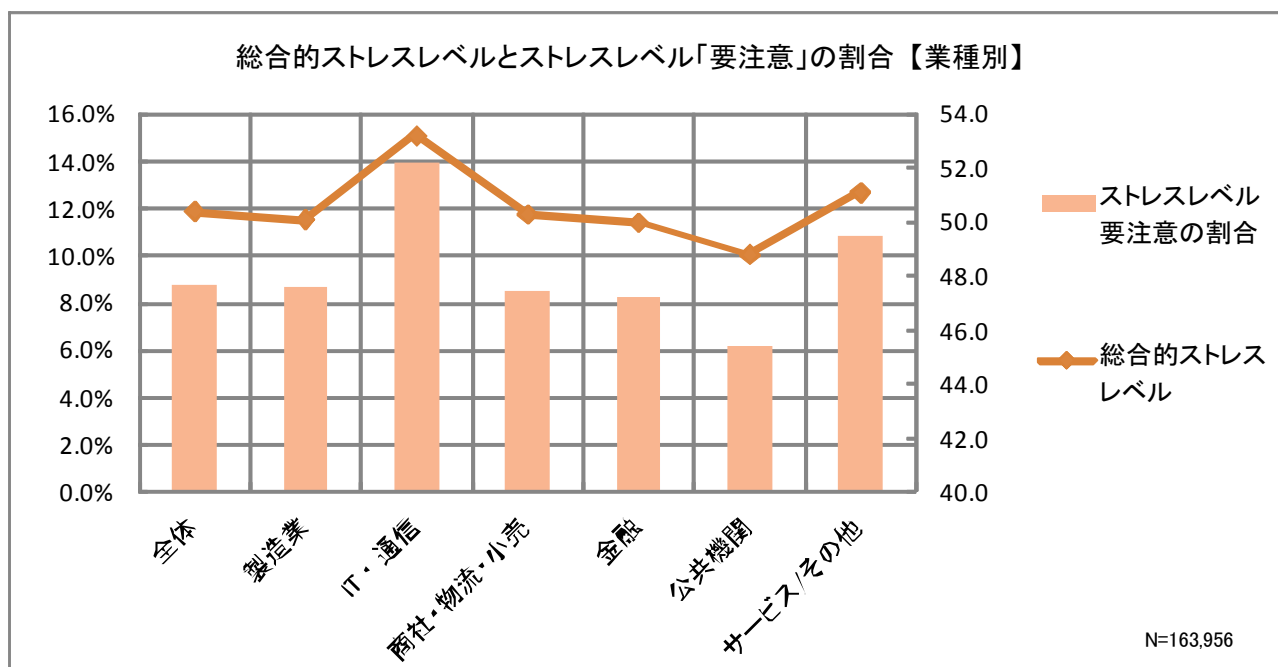
アドバンテッジ EAP を導入している企業・団体の従業員の方が回答したストレスチェック「ココロの健康診断 eMe(イーミー)」のデータを属性別に集計した。ポイントで度合いが示されている部分は、50ポイント(pt)を平均として、50pt より高い場合は「望ましくない／悪い」、50pt より低い場合は「望ましい／良い」結果となる。

・総合的ストレスレベルについて

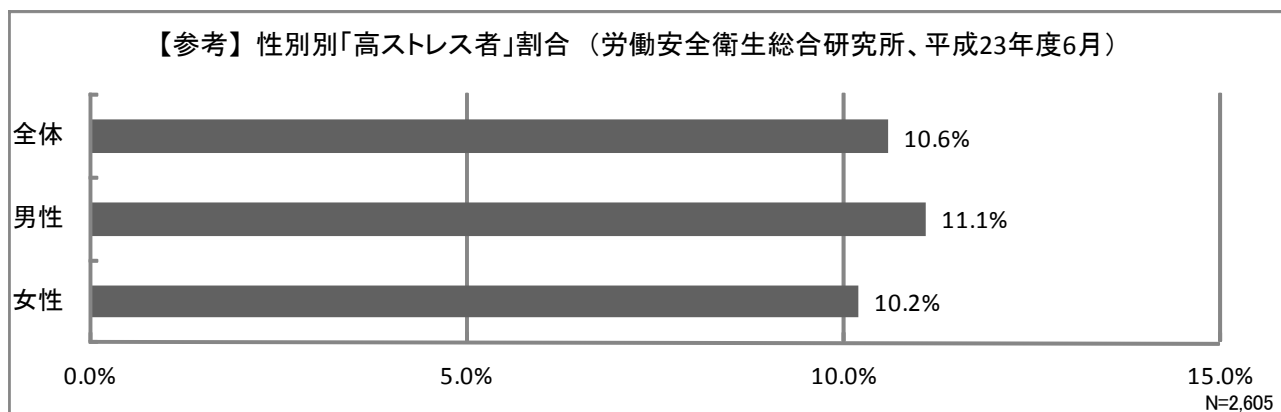
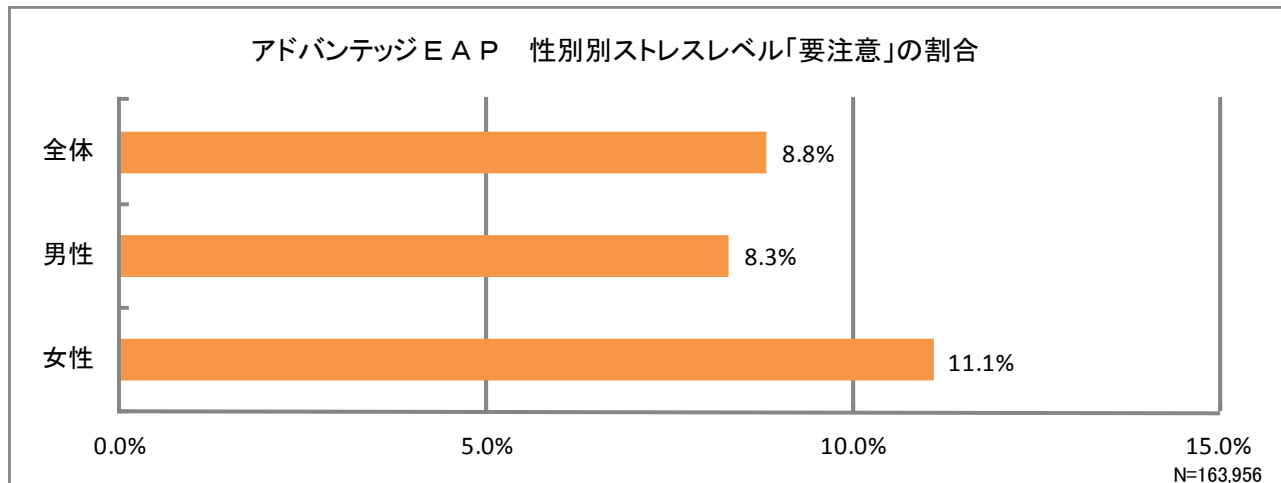
総合的ストレスレベルとは、ストレスや職場環境、組織や個人の元気度などの指標を基に総合的に算出したストレス度合いを指す。総合的ストレスレベルを男女別に見た場合には、男性(50.1pt)、女性(51.7pt)で女性の方が高い。年代別には、20代(51.7pt)が最も高く、30代(51.3pt)・40代(50.8pt)・50代(48.2pt)と年代が高いほどストレスレベルは低下する。



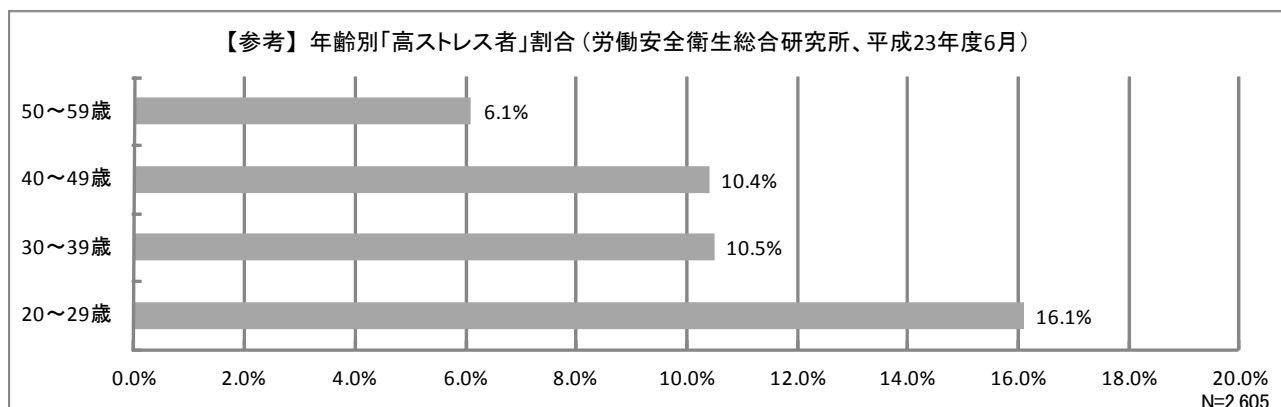
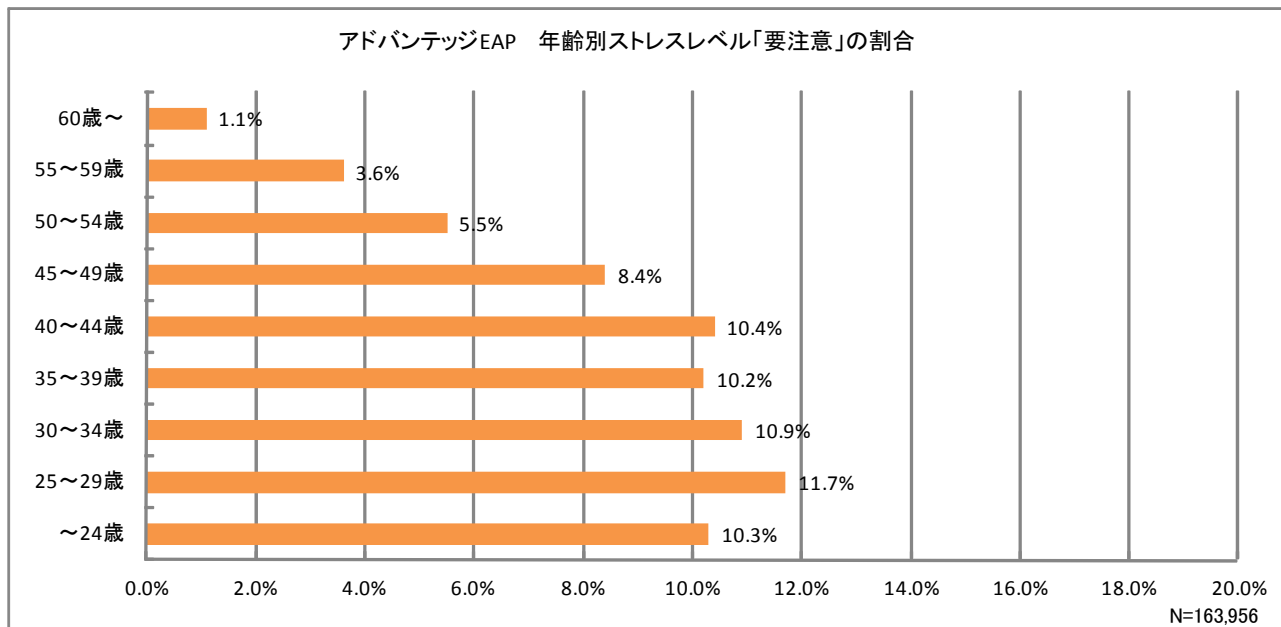
業種別では、IT・通信のストレスレベルが最も高かった(53.2pt)。



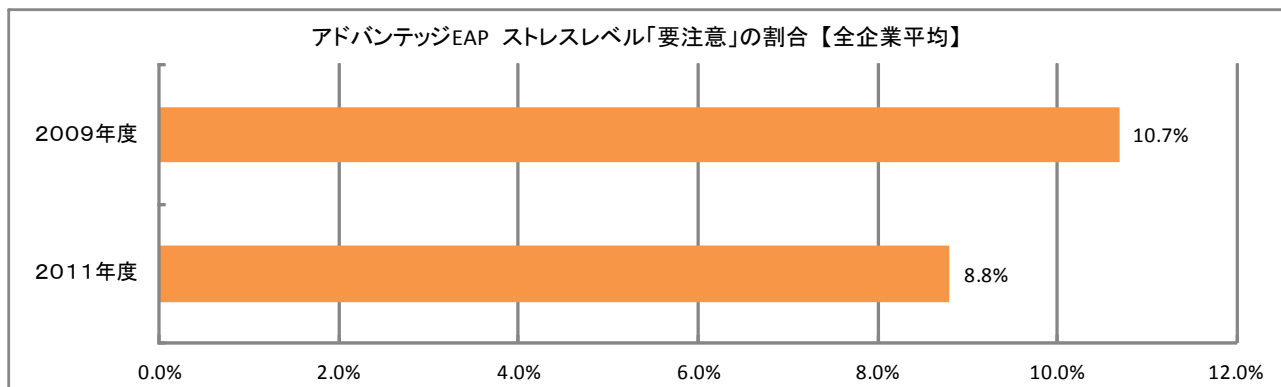
高いストレスを抱えている従業員(ストレスレベル「要注意」)の割合は、全体では 8.8%であり、男女別では男性が 8.3%、女性が 11.1%となり女性の方が高かった。



年代別に見ると、20代(11.4%)が最も多く、30代(10.5%)、40代(9.5%)が続いた。年代別の傾向では厚生労働省所管の独立行政法人労働安全衛生総合研究所のデータでも同様の傾向が見られた。

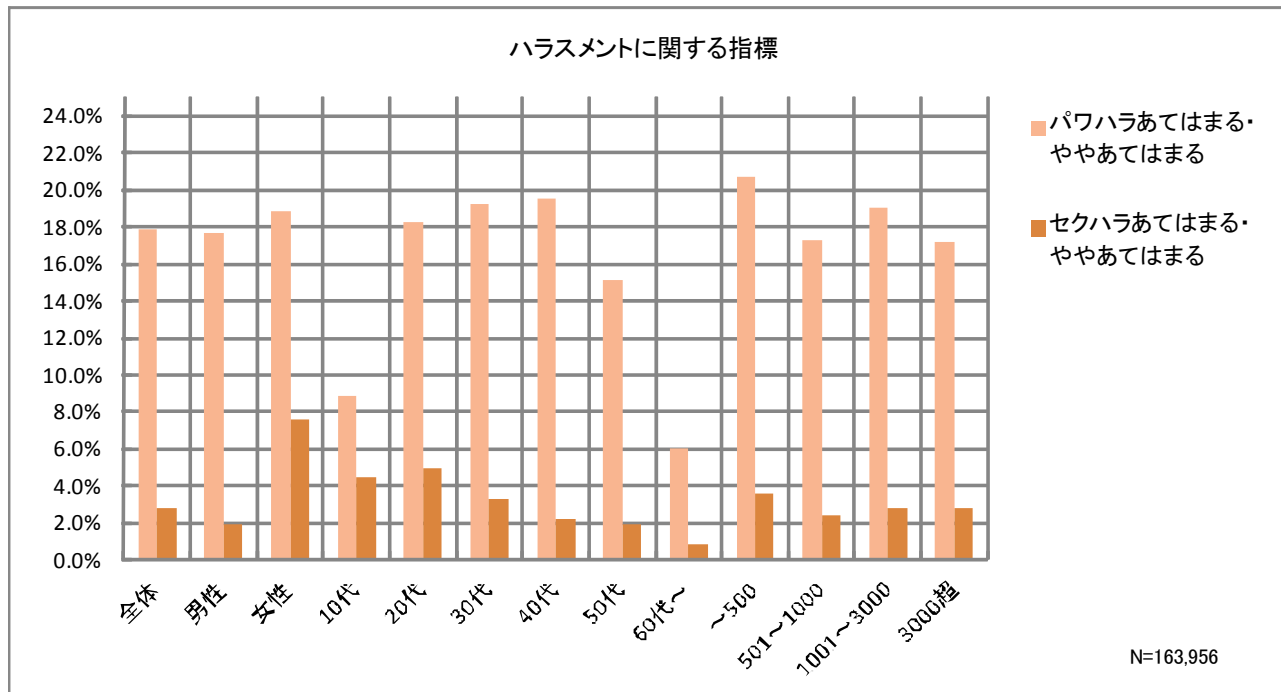


前回調査(2009年度)との比較では、ストレスレベル「要注意」の割合が2009年度10.7%に対して、2011年度は8.8%と約2%低下している。



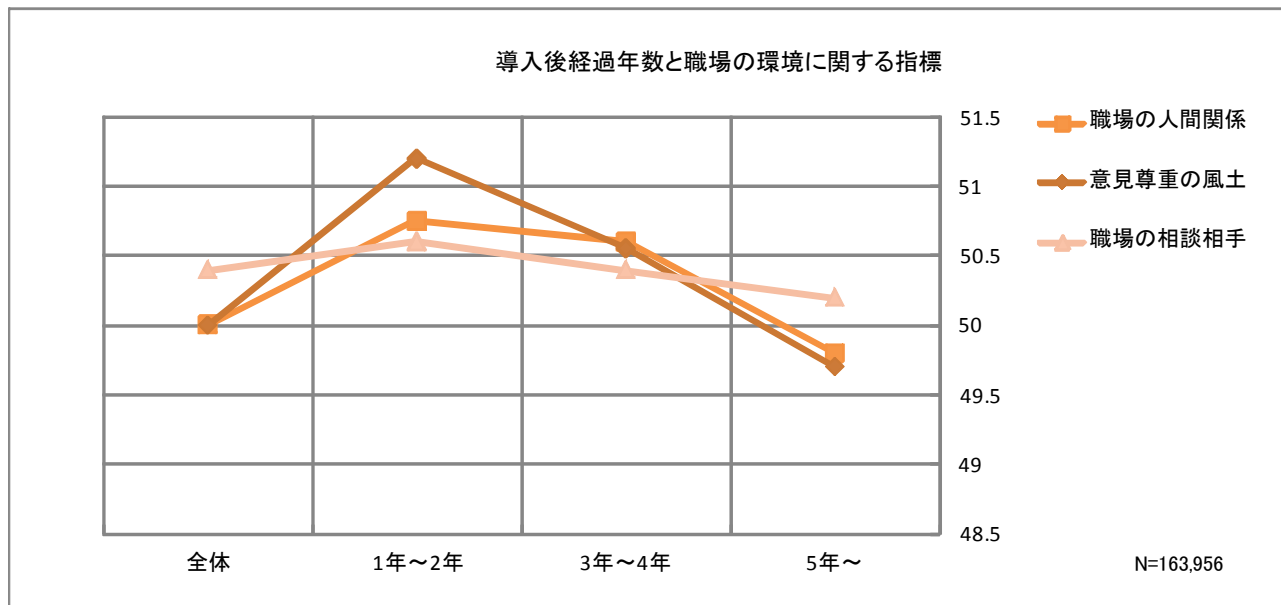
・ハラスメントに関する指標について

「職場でパワーハラスメント、セクシャルハラスメントに当てはまる出来事があった」という回答は、男女別では女性の方が多く、年代別ではセクシャルハラスメントは20代、パワーハラスメントは30代・40代に多く見られた。



・メンタルヘルス対策プログラム導入後の経過年数による影響について

メンタルヘルス対策プログラム「アドバンテッジEAP」を導入してから年数が経過するに従って、「職場の人間関係」「意見尊重の風土」「職場の相談相手」のポイントが良好になっている。



以上